

知っておきたい 診療技術

形成外科



形成外科スタッフ

2019年4月より、形成外科は常勤医師2名、非常勤医師2名体制となり、外来診療日が増えました。夏頃には診察室の増設も予定しています。一般形成外科、美容外来とも、これまで以上に充実した医療を提供してまいります。

**皮膚のできもの
(ほくろやいぼ)**
形成外科では、ほくろやいぼなど皮膚のできものの治療を行

っています。悪性腫瘍(皮膚がん)が疑われるかどうか、できものの種類や大きさ、部位などにより、様々な治療法があります。

●切除縫合

メスのできものを切り取り糸で縫合します。線状の傷痕がでますが、1回でできものを取り切る最も確実な方法です。悪性(皮膚がん)の疑いがある場合にはこの方法を選択し、病理組織検査を行います。



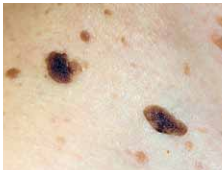
皮膚がん
(基底細胞がん)

●中周波メス(デルマトロン)による治療

皮膚に微量の電流をあてて治療します。麻酔は不要です。顔にできる脂漏性角化症(老人性いぼ)のうち小さいものや、首に多数できるいぼ(アクロコルドン)などが対象となります。



首に多発する
アクロコルドン



脂漏性角化症
(老人性いぼ)

治療後の処置は不要で、数日経つとかさぶたのようになって取れます。大きなものや数が多い場合には数回治療が必要となります(保険適用外)。

●炭酸ガスレーザーによる治療

形成外科では今年度より炭酸ガスレーザーを導入しました。麻酔をして、レーザーで皮膚を削り、ほくろやいぼを除去します。治療後は1〜2週間軟膏治療などを行います。出血がほとんどなく、皮膚へのダメージも少ないため、傷痕が目立ちにくいのが特徴です(保険適用外)。

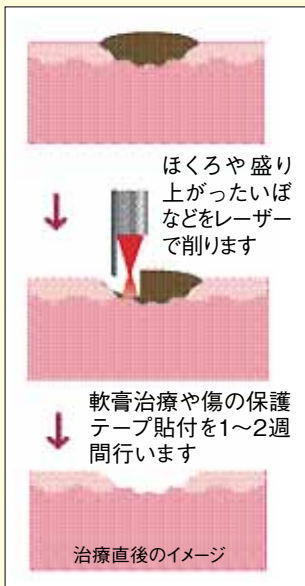
汗の病気

【原発性腋窩多汗症】

病気や薬などの原因がないにも関わらず、わきの汗が多く日常生活に支障を来すほどの状態であることをいいます。重度の場合にはボツリクス療法が保険適用となります。わきの皮内に注射をすると汗の分泌が抑えられ、効果は半年程度続きます。(薬剤の準備が必要のため、初診時に治療は行えませんのでご了承ください。)

(形成外科部長 宮澤季美江)

＜炭酸ガスレーザー治療のイメージ＞



炭酸ガスレーザー